

都市再生整備計画 事後評価シート
八幡地区

平成24年3月

福岡県北九州市

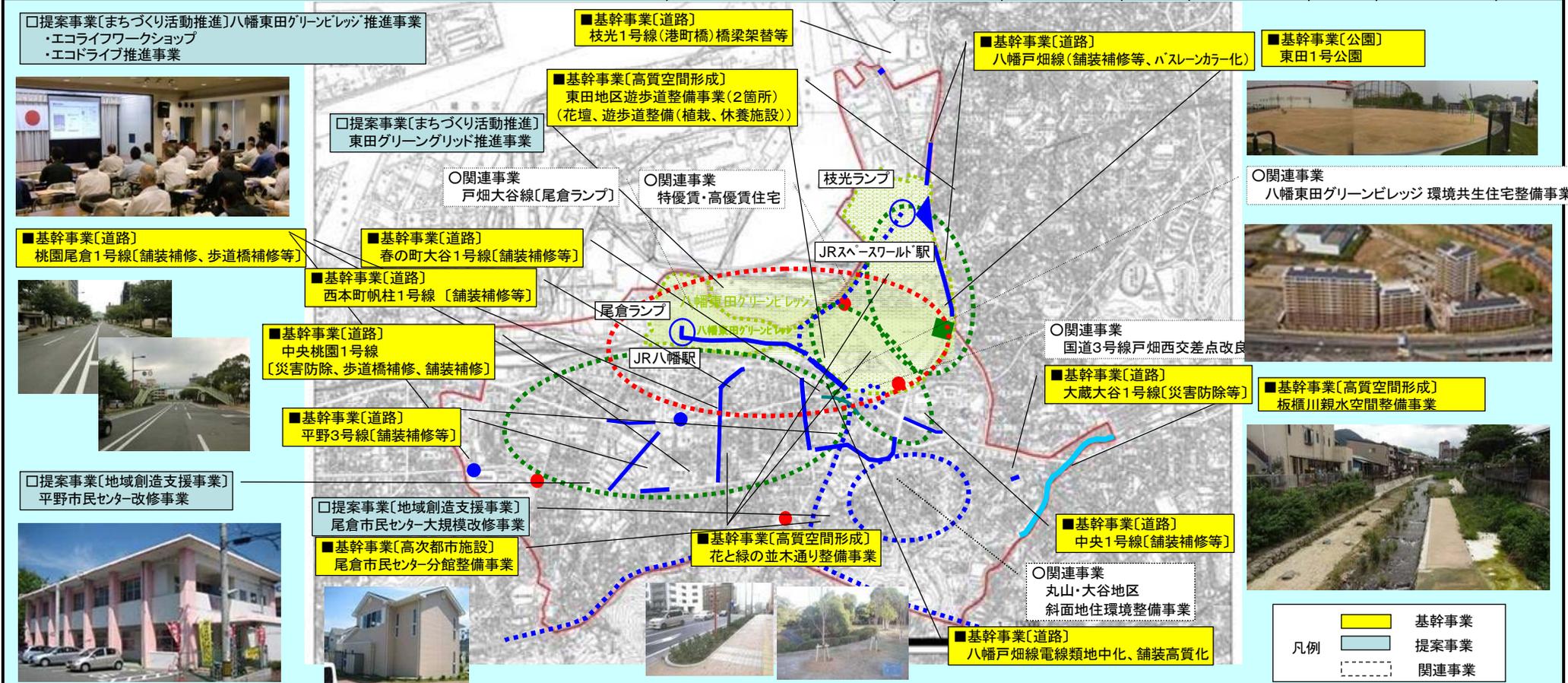
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	八幡地区			面積	649ha		
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1435.8百万円		国費率	40%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路事業(枝光1号線(港町橋)、大蔵大谷1号線、中央桃園1号線、八幡戸畑線、春の町大谷1号線)、公園事業(東田1号公園)、高質空間形成施設(花と緑の並木通り整備事業、板櫃川親水空間整備事業)、高次都市施設(尾倉市民センター分館整備事業)									
	当初計画から削除した事業		事業名										
			基幹事業	地域生活基盤施設(東田地区総合案内板設置)高次都市施設((仮称)学びの館整備事業)					・調整が難航し、交付対象期間中の事業完了が見込めないため、削除。 ・まちづくりの観点から施設計画を新たに再構築する必要が生じたため、削除。				
	新たに追加した事業		事業名										
			基幹事業	道路事業(桃園尾倉1号線、中央1号線、平野3号線、西本町帆柱1号線、八幡戸畑線電線類地中化等事業)高質空間形成施設(東田地区遊歩道整備事業)					・安全・安心の向上を図るとともに本地区の活性化を進める必要が生じたため、追加。 ・周辺環境と調和した道路景観整備を行う必要が生じたため、追加。				
交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					-	
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	環境ミュージアム来館者数	人/年	113,229	H17	120,000	H23	モニタリング	評価値	△	あり	独自で行なう予定のコンテンツの改修整備が遅れているため、当該施設の入館者数は目標値の人数を下回っているが、グリーンビレッジ推進事業の取り組みや市民ボランティア(環境学習サポーター)の活動により、H18～20年度と一時は目標を上回っており、環境共生のまちづくりへの一定の効果は確認できる。	平成24年4月
	指標2	JRスペースワールド駅の乗降者数	人/日	3,490	H17	4,500	H23			○	あり	地区内の道路事業や花と緑の並木通り整備事業、遊歩道等の整備を進めた結果、商業施設の進出もあり、緑豊かで潤いのある街並みや快適で利便性の高い都市空間が創出され、地区の中心であるスペースワールド駅の利用者数が増加した。	平成24年7月
	指標3	省エネライフ実践戸数の割合	%	0	H17	100	H23	53	100	○	あり	都市高速道路東田出入口の整備、バスレーンカラー化、橋梁架替など、質の高い道路、橋梁等都市インフラの提供を行うとともに、東田地区の居住者に対してはワークショップやエコドライブセミナーなど、エコライフ実践のための学習機会を提供した。	平成24年4月
	指標4	居住人口	人	32,159	H17	31,000	H23			○	あり	環境共生住宅の立地や地域住民の活動拠点である市民センターの改修、周辺の道路、公園などの整備により地域の利便性が向上し、H17年度では1.2%の減少率であった居住人口が、斜面地では減少傾向にあるものの、地区全体としてほぼ横ばいとなっている等、地区内における人口減少率	平成24年5月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1													
その他の数値指標2													
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ミュージアムでは、環境サポーターによる環境学習活動や環境施設等でのガイドの実施等により、特に市内の団体からの来館者が増加しており、環境学習をより身近に体験できるようになっている。 ・板櫃川では、これまでも「水辺の美校」を拠点として水辺の環境学習や清掃活動等を行っているが、本計画により整備した区域を一体的に活動の拠点とした計画を作成することで、新たな環境共生のまちづくりにつながっている。 ・当該地区内の事業所や住民向けにエコドライブセミナー等を開催することで環境啓発につながっている。 ・これまで当該地区で推進してきた八幡東田グリーンビレッジ構想やSHINE博物館構想などで、グリーンビレッジ推進事業、カーシェアリング事業、文化施設整備事業などに取り組んできたことにより、環境首都を担うモデル街区として、住みやすさ・居心地の良さを実感できるようになっている。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	八幡東田グリーンビレッジ推進地域協議会の運営及び活動の支援		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 八幡東田地区に立地している企業等から構成されている「八幡東田まちづくり連絡会」なども連携しながら、八幡東田地区のまちづくり活動について支援していく					

様式2-2 地区の概要

八幡地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 環境首都を担う先進モデル地区として、市民・事業者のみならず、来訪者をも含む環境共生まちづくりを実現し、魅力的で持続可能な都市環境の創造とにぎわいの創出を目指す。 目標1: 公民協働による環境共生まちづくりの推進 目標2: 人と地球環境にやさしい都市環境と質の高いエコライフの創造 目標3: 緑豊かで潤いのある街並みと快適で利便性の高い都市生活の創造 目標4: 既存市街地における街なか居住の促進	環境ミュージアム来館者数	単位: 人/年	113,229 H17	120,000 H23	116,320 H23
	JRスペースワールド駅の乗降者数	単位: 人/日	3,490 H17	4,500 H23	6,142 H23
	省エネライフ実践戸数の割合	単位: %	0 H17	100 H23	100 H23
	居住人口	単位: 人	32,159 H17	31,000 H23	31,993 H23
	-	単位: -	-	-	-



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・板櫃川の整備や地区内の通りの植樹や花植え、エコドライブ等の取組により、地域の住民やNPO、企業が活動できる拠点形成を行ったが、地区内の住民向けのソフト事業を構築する必要がある。 ・地区内において、マンションの建設、市民センターの整備により、居住人口の減少率の軽減及び地域住民の活動の拠点形成につながっているが、環境ミュージアムとの連携を図る必要がある。 ・地区内において、マンションの建設、道路・公園などの整備により、街なかの住みやすさが向上したが、既存市街地の賑わいづくりをする必要がある。 ・新しい街である東田地区と、東田地区以外の既存市街地との連携、交流を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市民参加型の協働イベントの実施や環境共生まちづくりの拠点整備を行ない、市民・NPO・企業などとの協働の推進を図る。 ・八幡地区のさらなる活性化及び都市の付加価値向上のために、グリーングリッドの整備、いのちたび博物館の整備、環境関連施設の整備、スマートコミュニティ創造事業など周辺環境の整備に取り組む。 ・環境ミュージアムを中核として、東田地区などの新しいまちと既存市街地の住民とが定期的に交流できる仕組みを作り、共通の価値観の構築を図る。